

- 問1 14世紀末から16世紀半ばにかけての明（中国）側の記録によると、明へ朝貢を行った回数はシャム（73回）や朝鮮（30回）に比べて琉球王国が171回と極めて多いことが分かっています。この時期に琉球王国が行っていた貿易の実態について説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2025年 徳島県公立入試 類似）
1. 明へ日本産の漆器や刀剣を輸出し、その見返りとして明から大量の香木や香料を直接仕入れていた。
 2. 東南アジアから輸入した銅銭をそのまま明へ輸出し、明から高級な漆器を大量に買い付けていた。
 3. 明から陶磁器や銅銭を得て、それを東南アジアの香料や香木とともに日本などの周辺諸国へ転売していた。
 4. 明への朝貢回数は他国より制限されていたため、主に日本との直接取引だけに限定して貿易を行っていた。
- 問2 日本の中世（鎌倉時代・室町時代）において、馬を利用して荷物を運送し、物資の流通に重要な役割を果たした業者を何と呼びますか。（2022年 茨城県公立入試 類似）
1. 馬借
 2. 問丸
 3. 酒屋
 4. 土倉
- 問3 室町時代の商業発展について記された資料の中で、土倉や酒屋などの商人が「座」を結成していた背景を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2021年 岐阜県公立入試 類似）
1. 江戸幕府の許可を得ることで、全国規模での卸売権を確立するため
 2. 公家や寺社に税を納めることで、他者の参入を防ぐ独占権や保護を得るため
 3. 農村の自治組織として、領主に対して年貢の減免を交渉するため
 4. 生産者から商品を直接買い取り、都市の小売商人に分配する仕組みを作るため
- 問4 「明軍と倭寇の戦い」が描かれた資料と、「紫式部による国風文化」が描かれた資料を比較したとき、それぞれの時代背景を説明した組み合わせとして正しいものはどれか。（2021年 北海道公立入試 類似）
1. 江戸時代と鎌倉時代
 2. 鎌倉時代と平安時代
 3. 室町時代と奈良時代
 4. 室町時代と平安時代
- 問5 1467年に始まった応仁の乱は、京都を主な戦場として11年近く続きました。この乱の直接的な原因と、その後の社会の変化について述べた説明として最も適切なものはどれですか。（2026年 奈良県公立入試 類似）
1. 元の襲来（元寇）による恩賞の不満が武士の間で高まったことが原因となり、鎌倉幕府が滅亡して天皇による親政が始まった。
 2. 織田信長が足利義昭を追放したことが原因となり、室町幕府が滅亡し、近世に向けた城下町の整備が進められた。
 3. 室町幕府の8代将軍、足利義政の後継者争いや有力な守護大名の対立が原因となり、実力のある者が上の者を倒す「下剋上」の風潮が強まった。
 4. 南朝と北朝の二つの朝廷が対立したことが原因となり、足利義満がこれを統一することで、幕府による全国支配が完成した。
- 問6 室町時代に登場した、絵入りの物語本のことを何と呼ぶか。「浦島太郎」や「一寸法師」のように庶民を主人公とした物語が多く描かれ、当時の人々に広く親しまれたものを次の中から選びなさい。（2020年 千葉県公立入試 類似）
1. 軍記物語
 2. 御伽草子
 3. 人形浄瑠璃
 4. 浮世草子
- 問7 室町時代に行われた日明貿易（勘合貿易）において、2枚に分かれた札を照らし合わせて確認する「勘合」という証明書が導入された主な目的として、最も適切なものはどれですか。（2017年 富山県公立入試 類似）
1. 明の許可を得た正式な貿易船と、倭寇と呼ばれる海賊を区別するため
 2. 貿易船に積まれた貨物の量を記録し、明の皇帝へ報告するため
 3. 幕府が国内の有力な大名から通行税を徴収する証明とするため
 4. 明の商人が日本国内でキリスト教を布教するのを防ぐため
- 問8 室町時代後期の1467年に始まり、その後約11年間にわたって続いた「応仁の乱」が起きた背景や原因の説明として、最も適切なものはどれですか。（2021年 神奈川県公立入試 類似）
1. 平氏による政治の独占に不満を持った源頼朝が、東国の武士をまとめて全国的な内乱へと発展させた。
 2. 将軍の跡継ぎ問題に加え、細川氏や山名氏といった有力な守護大名の勢力争いが結びついた。
 3. 鎌倉幕府を倒した後の天皇中心の政治に対し、足利尊氏が武家政治の再興を求めて挙兵した。
 4. キリスト教の信仰を禁じる江戸幕府の政策や過酷な年貢の取り立てに対し、九州の領民が武装して蜂起した。
- 問9 琉球王国の王城である首里城の建築様式や歴史的背景に関する記述として、最も適切なものはどれですか。（2018年 群馬県公立入試 類似）
1. 完全な和風建築であり、室町幕府の守護大名が住む館と同じ構造で造られている。
 2. 平安時代の貴族の住居である寝殿造の影響を強く受け、左右対称の美しい庭園を持つ。
 3. 薩摩藩の武家屋敷としての機能を重視し、軍事的な防衛能力のみに特化している。
 4. 中国や日本などの影響を受けた独自の建築様式を持ち、国際交流の象徴となっている。
- 問10 室町幕府の政治体制における「管領」の説明として、その仕組みや特徴を正しく述べたものはどれか。（2018年 香川県公立入試 類似）
1. 徳川氏に忠誠を誓う譜代大名の中から選ばれ、複数の人数による合議制で重要事項を決定した。
 2. 足利氏の一門である有力な守護大名が交代で務め、将軍に次ぐ立場で実務機関を指揮した。
 3. 北条氏が独占的に世襲し、将軍の幼少期だけでなく成人後も政治の全権を握り続けた。
 4. 天皇を助けるために設置され、全国の武士を統制することで律令制度の復活を目指した。
- 問11 琉球王国の拠点であった首里城とその歴史的背景に関する記述として、最も適切なものを次のうちから選びなさい。（2024年 群馬県公立入試 類似）
1. 明治時代の廃藩置県が行われるまで、一度も他国の干渉を受けることなく独立を維持し、独自の「琉球文字」のみを公用文に使用していた。
 2. 室町幕府の直接の支配下に置かれ、足利将軍家の別邸として首里城が築かれたことで、京の文化がそのまま沖縄全土に広まった。
 3. 中国の皇帝に貢物を贈る朝貢貿易を行いながら、17世紀初めからは日本の薩摩藩による支配も受けるという、独自の二重の支配体制の中にあった。
 4. 江戸幕府の鎖国政策の影響を強く受け、海外との貿易を完全に禁止したため、首里城は軍事拠点としての機能のみを重視して設計された。
- 問12 足利義政が京都の東山に築いた別荘（慈照寺）にある、二層構造の木造建築物と、その時代の文化の特色について述べた文として正しいものはどれですか。（2019年 新潟県公立入試 類似）
1. 禅宗の影響を受けた簡素で落ち着いた趣の建物である銀閣に代表され、わび・さびの精神を重んじる文化
 2. 足利義満が建てた、建物全体に金箔を貼った豪華な金閣に代表される、公家文化と武家文化が融合した文化
 3. 寝殿造の様式を取り入れ、貴族の優雅な生活を反映した平等院鳳凰堂に代表される、国風文化
 4. 唐の影響を強く受け、国際色豊かな宝物が納められた正倉院などに代表される、天平文化

答え合わせ・解説

問1	答え 3 明から陶磁器や銅銭を得て、それを東南アジアの香料や香木とともに日本などの周辺諸国へ転売していた。	琉球王国は明との活発な朝貢貿易を通して、陶磁器や銅銭などを入手しました。同時に東南アジアからは香木や香料などを輸入し、これらを日本をはじめとする周辺諸国へ転売する中継貿易を行いました。
問2	答え 1 馬借	鎌倉時代から室町時代にかけて、交通の要所に拠点を置き、馬を使って荷物を運んだ運送業者のことです。物資の流通が活発になったこの時代において、各地の市場や港を結ぶ重要な物流の担い手となりました。
問3	答え 2 公家や寺社に税を納めることで、他者の参入を防ぐ独占権や保護を得るため	中世の商業は、現代のような自由競争ではなく、有力な権力者による裏付けが必要でした。商人は「座」を構成し、税を納める見返りとして「本所」と呼ばれる公家や寺社から、その地域や商品における販売の独占を認められていました。これにより、安定した商売を行うことが可能となりました。後に織田信長らが「楽市・楽座」によってこの仕組みを廃止したことは、商業の自由化を象徴する出来事です。
問4	答え 4 室町時代と平安時代	勘合貿易を行い倭寇の取り締まりを行ったのは室町時代の幕府の役割である。一方、紫式部の執筆活動や国風文化の隆盛は、摂関政治が行われていた平安時代の文化的な特徴である。
問5	答え 3 室町幕府の8代将軍、足利義政の後継者争いや有力な守護大名の対立が原因となり、実力のある者が上の者を倒す「下剋上」の風潮が強まった。	応仁の乱は、8代将軍足利義政の跡継ぎ問題をきっかけに、細川氏（東軍）と山名氏（西軍）という有力な守護大名が二派に分かれて争ったことで長期化しました。この乱の結果、将軍や幕府の権威は大きく衰退し、各地で実力のある者が主君を倒して実権を握る「下剋上」の動きが加速し、戦国時代へと移行しました。
問6	答え 2 御伽草子	室町時代には、貴族や武士だけでなく、庶民の間にも文化が広がりました。この時期に流行した御伽草子は、挿絵が入った短い物語本であり、庶民の姿や願いが反映された内容が特徴です。江戸時代に井原西鶴らが手がけた浮世草子や、浄瑠璃の語りに合わせて人形を動かす人形浄瑠璃と混同しないよう時代背景を整理しておく必要があります。
問7	答え 1 明の許可を得た正式な貿易船と、倭寇と呼ばれる海賊を区別するため	当時、東シナ海などでは倭寇と呼ばれる海賊が活動しており、明との貿易を妨げる大きな要因となっていました。足利義満は明との国交を樹立する際、明から交付された「勘合」という札を用いる仕組みを導入しました。これにより、公式な外交・貿易の権利を持つ船か、あるいは略奪を行う倭寇であるかを厳密に判別できるようになり、貿易の安定と海賊の抑制を図りました。
問8	答え 2 将軍の跡継ぎ問題に加え、細川氏や山名氏といった有力な守護大名の勢力争いが結びついた。	応仁の乱は、室町幕府の8代将軍足利義政の後継者をめぐる争いに、幕府の要職を務める有力な守護大名たちの対立が加わって発生しました。この戦乱により、戦いの舞台となった京都は荒廃し、幕府の権威が失墜したことで、実力のある者が上の者を倒す「下剋上」の風潮が強まり、戦国時代へと向かう大きな転換点となりました。
問9	答え 4 中国や日本などの影響を受けた独自の建築様式を持ち、国際交流の象徴となっている。	琉球王国は中国と朝貢貿易を行い、同時に日本とも深い関わりを持っていたため、首里城の建築には両国の文化が融合した独自の様式が見られます。例えば、龍の装飾などは中国の影響を強く受けています。これは、当時の琉球が中継貿易の拠点として多様な文化を受け入れていた背景を反映しています。
問10	答え 2 足利氏の一門である有力な守護大名が交代で務め、将軍に次ぐ立場で実務機関を指揮した。	管領は、足利氏の有力な分家である細川・斯波・畠山の三家（三管領）が交代で務めることが慣例でした。室町幕府は有力な守護大名の連合政権という性格が強かったため、彼らの中から選ばれた管領が、侍所などの実務機関を統括しながら幕政の安定を図りました。これに対し、執権は鎌倉幕府、老中は江戸幕府の役職であり、それぞれの幕府によって権力の構成や選ばれる家柄が異なります。
問11	答え 3 中国の皇帝に貢物を贈る朝貢貿易を行いながら、17世紀初めからは日本の薩摩藩による支配も受けるという、独自の二重の支配体制の中にあった。	琉球王国は、地理的条件を活かした中継貿易で栄えました。1609年に薩摩藩（島津氏）の侵攻を受けて以降は、日本の支配下に入りつつも、中国（明・清）との朝貢関係も継続するという複雑な国際関係を維持しました。首里城には中国からの使者を迎えるための施設など、この二重の外交関係を象徴する構造が見られます。
問12	答え 1 禅宗の影響を受けた簡素で落ち着いた趣の建物である銀閣に代表され、わび・さびの精神を重んじる文化	足利義政によって築かれた東山文化は、室町時代の後半に発展しました。三代将軍義満の北山文化が豪華であったのに対し、東山文化は禅宗の精神を取り入れた「簡素さ」や「落ち着いた趣」を特徴としています。銀閣（慈照寺銀閣）はその代表例であり、一階部分は現在の和室の原型となる書院造の様式が見られ、武士や禅僧の生活様式が反映されています。